

SCREEN ホールディングス (コード 7735)

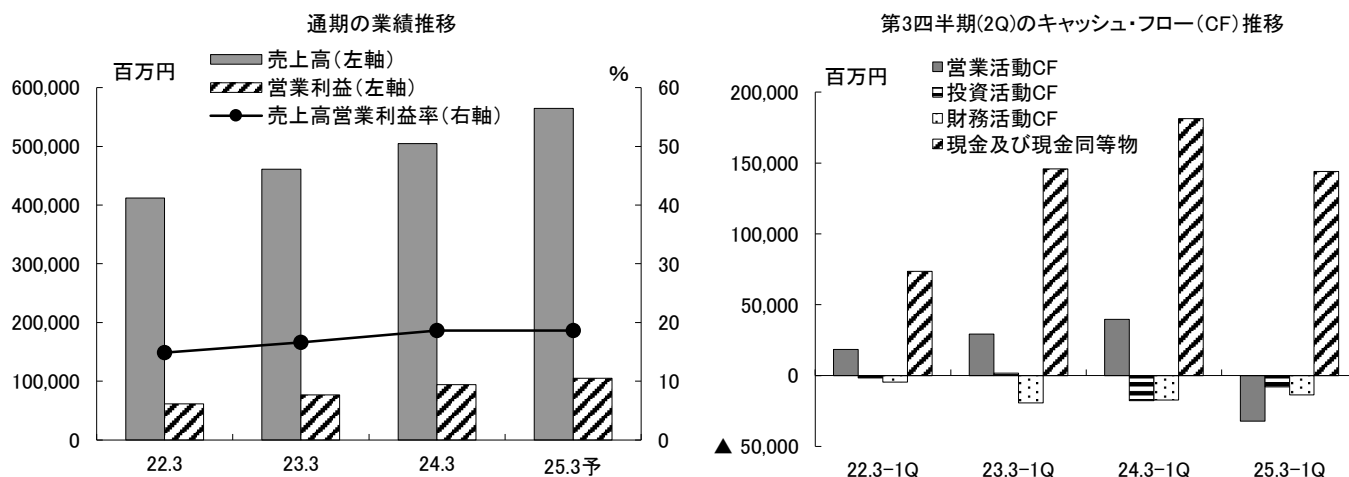
◆各決算期の第1四半期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	82,856	8,693	65.3	—	18,552	▲1,688	▲4,472	73,555
23.3	101,826	17,849	171.8	—	29,269	1,739	▲19,350	145,925
24.3	99,690	13,418	99.4	—	39,803	▲17,573	▲17,219	181,420
25.3	134,217	27,768	187.6	—	▲32,120	▲7,949	▲13,691	144,001

◆通期業績推移(連結) (25.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	411,865	61,273	488.3	146.5	81,752	▲9,952	▲4,951	131,011
23.3	460,834	76,452	608.2	182.5	73,906	▲12,514	▲20,961	173,660
24.3	504,916	94,164	742.1	223.5	96,255	▲43,456	▲35,142	195,423
25.3予	564,500	105,000	772.4	233.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



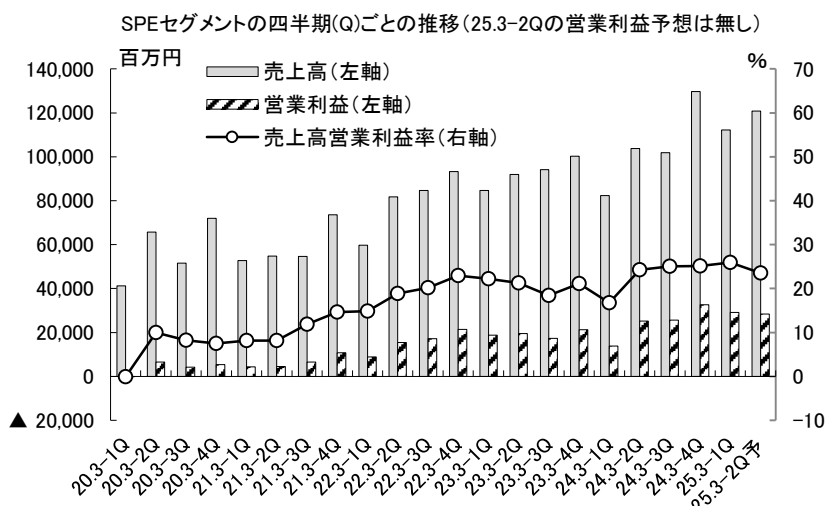
25年3月期の第1四半期業績概況…25年3月期の第1四半期(24年4~6月)は、売上高全体の8割以上、営業利益のほとんどを占める主力のSPE(半導体製造装置事業)が好調に推移したことなどにより、売上高は前年同期に比べて約35%増加し、営業利益は倍増となった。

当期の売上高は1,342億1,700万円(前年同期比34.6%増)、営業利益は277億6,800万円(同106.9%増)、経常利益は278億9,300万円(同103.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は182億1,500万円(同93.2%増)となった。

主な事業セグメント別の売上高は、SPE1,121億8,400万円(同36.2%増)、GA(グラフィックアーツ機器事業)123億8,200万円(同6.8%増)、FT(ディスプレイ製造装置及び成膜装置事業)52億1,200万円(同117.9%増)、PE(プリント基板関連機器事業)39億2,400万円(同15.2%増)に。また、主な事業セグメント別の営業利益は、SPE290億5,400万円(同110.6%増)、GA8億1,900万円(同12.0%減)、FT2億5,800万円の損失(前年同期は4億8,000万円の損失)、PE5億300万円(前年同期比35.1%増)となった。

主力のSPEにおいて、四半期(3カ月)ごとの動きでは、赤字となった20年3月期第1四半期(19年4~6月)以降は黒字が続き、21年3月期からは多少の凹凸はあるものの業績は右肩上がり推移。この第1四半期は、売上高、営業利益とも同四半期ベースで過去最高を記録し、

売上高営業利益率についても 25.9%（前年同期は 16.8%）に伸びて過去最高となった。中でもメモリー向けやファウンドリー向けが好調に推移し、売上構成比率ではメモリー向けが 16%（前年同期は 3%）、ファウンドリー向けも 51%（同 49%）に拡大。地域別では米国向けが減少したものの中国向けが増加し、売上構成比率では北米向けが 9%（同 23%）に縮小した一方、中国向けが 51%（同 23%）に急拡大した。GA については、インクを中心とするリカーリングビジネスの売上が増加したものの、固定費の増加が響き減益になった。FT においては、装置売上が増加し、損失額も縮小した。PE では、直接描画装置の売上が増加し、利益面でも大幅な増益となった。



キャッシュ・フローの状況について、この四半期末現在の現金及び現金同等物残高は 1,440 億 100 万円（前年同期末比 20.6%減）となった。営業活動による CF は、税金等調整前四半期純利益 278 億 9,000 万円（前年同期比 103.9%増）、売上債権及び契約資産の減少額 217 億 1,100 万円（前年同期は増加額 26 億 2,900 万円）などの収入項目に対し、棚卸資産の増加額 194 億 5,400 万円（前年同期比 35.4%増）、契約負債の減少額 282 億 5,800 万円（前年同期は増加額 403 億 300 万円）、法人税等の支払額 176 億 3,200 万円（前年同期比 9.7%増）など支出項目が上回ったことにより、321 億 2,000 万円の支出（前年同期は 398 億 300 万円の収入）となった。投資活動による CF は 79 億 4,900 万円の支出（前年同期比 54.8%減）で、有形固定資産の取得による支出 66 億 5,100 万円（同 52.8%減）などによる。財務活動による CF は 136 億 9,100 万円の支出（同 20.5%減）で、配当金の支払額 133 億 4,800 万円（同 21.1%減）などによる。

25 年 3 月期の通期業績見通し…25 年 3 月期の通期業績は、売上高 5,645 億円（前期比 11.8%増）、営業利益 1,050 億円（同 11.5%増）、経常利益 1,050 億円（同 11.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益（以下、当期純利益）750 億円（同 6.3%増）の見通しで、今年 5 月 9 日時点での会社側予想値（売上高 5,600 億円、営業利益 1,000 億円、経常利益 1,000 億円、当期純利益 720 億円）から増額修正されている。

主な事業セグメントにおいて、売上高予想では、SPE が 4,630 億円（同 10.9%増。修正前 4,600 億円）、GA が 480 億円（同 1.0%増。修正無し）、FT が 355 億円（同 58.3%増。修正前 340 億円）、PE が 150 億円（同 3.3%増。修正無し）に。また、営業利益予想では、SPE が 1,105 億円（同 13.9%増。修正前 1,060 億円）、GA が 30 億円（同 30.2%減。修正無し）、FT が 15 億円（前期は 4 億 2,500 万円の損失。修正前 10 億円）、PE が 20 億円（前期比 7.5%増。修正無し）となっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などにに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。